

都立練馬工業高校 学カスタンダード

(1) 現代 に 生 き る 私 た ち の 課 題	<p>現代社会の諸問題について、自らとのかかわりに着目しながら追求する学習を通して現代の社会への興味・関心を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 持続可能な社会を形成するための取り組みを考察するために必要な知識を理解し、身につける。 2, さまざまな地球環境問題とその発生原因を理解できる。 3, 私たちの生活と温暖化が密接にかかわっていることに気づき、自らの生活を改めていくために必要なことを考察できる。 4, 京都議定書からパリ協定への取り組みと、各国の地球温暖化の取り組みから対処方法を考える。 5, エネルギー資源の種類と有限性や、エネルギー消費が増える現状について理解し、原子力エネルギーの課題について考察できる。代替エネルギーについても考察できる。 6, 情報化社会の功罪を理解し、情報化への対応について考察し、自らの情報倫理を正しく形成し、メディアリテラシーを高める。
(2) 現代 の 社 会 と 人 間 と し て の 在 り 方 生 き 方	<p>現代社会における政治、経済と自己の生活が深く結びついていることの認識を深め、主体的に社会参画することの意義を認識できる。</p> <p>ア 現代の社会生活と青年</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 少子高齢化社会になった理由とその課題について理解する。 2, 青年期の特徴と発達課題としてのアイデンティティの確立について理解する。 3, 青年期の性と、働くことの意義と社会参加について考察する。 <p>イ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 市場経済の意味と市場経済における競争の意味について理解する。 2, 企業活動の目的と社会的責任について理解する。 3, グローバル化における日本の中小企業現状と課題について考察する。 4, 女性と労働、外国人労働者の問題について着目し、労働基本権と労働三法を理解する。 5, 賃金、労働時間、失業率の増加など雇用環境の変化について考察し、進路意識を高める。 6, 財政の資源配分機能、所得再分配機能、景気の安定化機能について理解する。 7, 日本の税制と財政赤字についての問題点を考察する。 8, 中央銀行である日本銀行のはたらきについて理解する。 9, 日本の公害の歴史から、企業の環境への取り組みを考察する。 10, 日本の社会保障制度の仕組みを理解する。 11, 福祉社会の実現に向けた自分自身のありかたについて考察できる。 <p>ウ 現代の民主政治と民主社会の倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 基本的人権が認められるようになった過程と民主主義の歩みを理解する。 2, 日本国憲法の制定過程と基本原理を理解し、立憲主義の意義を考察できる。 3, 日本国憲法の制定過程から、日本国憲法と大日本帝国憲法の違いを考察する。 4, 自由権の対立について、公共の福祉とのかかわりを理解し、考察できる。

都立練馬工業高校 学カスタンダード

- 5, 平等権と今も残る差別や偏見の問題について理解できる。
- 6, 社会権の登場の過程と憲法が社会権を保障することの意義について理解する。
- 7, 新しい人権について、時代の変化に着目しながら登場の理由と内容を理解する。
- 8, 日本の安全保障と核兵器に関して、歴史的な経緯を踏まえて考察する。
- 9, 国会のしくみと、二院制・国政調査権の意義について理解する。
- 10, 内閣の仕事と役割、議院内閣制のしくみについて理解する。
- 11, 刑事裁判と民事裁判の違いから、司法の役割や裁判のしくみについて考察する。
- 12, 市町村合併の意義から、地方自治の本旨について考える。
- 13, 程なく主権者となる生徒にとって、選挙が国民主権の実現の場であることを理解し、政治参加についての関心を高める。

エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

- 1, 現代のグローバル社会が、人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動し、国際的依存関係が深まる中で形成されてきたことを理解できる。
- 2, 人種や民族の違いが、宗教や言語の問題と結びついて地域紛争や分断を引き起こすことがあることを知り、人類の共生に向けた努力の大切さを理解する。
- 3, 発展途上国に対して先進国や日本が行える効果的な援助を考える。
- 4, 国際社会における主権国家の意味を理解する。
- 5, 国連の成立過程とその役割、組織について理解する。
- 6, 世界平和への取り組みとして、国連平和維持活動の役割と成果を理解する。
- 7, 日本の国際貢献の必要性や果たすべき役割について考察できる。

(3) 共に生きる社会を目指して 持続可能な社会の形成に参画することの重要性について理解し、「個人と社会の関係」に注目して現代社会の諸課題（例えば、アフターコロナ、ウィズコロナに生きるものとして）について考察できる。